

ドナウ通信

No. 53

目次

特集 - 立ち上げ苦労話

「ハンガリー昨日、今日、明日」

MITSUBA Kft. 岡部 春高 2

「素晴らしきかなハンガリー」

オーテック(ユーシン) 宮下 幸治 5

会社紹介

Taiho Corporation of Europe Kft. 賀来 芳弘 7

随想

「ハンガリー生活を振り返って」 手島 まゆみ 8

「パッケージツアーのススメ」 新子谷ちかこ 11

話題の書籍紹介

ブライアン・グリーン『エレガントな宇宙』 14

補習校便り

補習校児童作文(運動会特集) 全学年生 19

補習校からのお知らせ 28

日本人会・補習校 大運動会の報告 小川 英俊 28

ソフトボール・バレーボール大会観衆之巻 田村 敏展 30

第七回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報 佐藤 紀子 32

拉致とハンガリーの接点 盛田 常夫 34

週末庭球部活動報告 池田 太郎 38

ゴルフマッチプレー大会報告 賀来 芳弘 40

特集 立ち上げ苦労話

ハンガリー

昨日、今日、明日

MITSUBA Kft.

岡部 春高

其の一

ハンガリーでの新会社立ち上げ赴任を命ぜられて以来、四ヶ月目には出張ベースでのブダペスト初訪問（昨年一〇月初）。“さあ！登記簿に自分の名前が出ればいい加減なことは出来ないゾー”と心持ち下腹に力が入った。兎に角、ハンガリーという土俵を貸して貰うという謙虚な気持ちと、その一抹の不安は、まさに“トラップ家の家庭教師と乗り込むマリアの心境か”（映画、

Sound of Music 冒頭シーン……：かなり古い？）。

其の国を好きにならねば長居は出来ぬ、良い仕事も出来ぬ！、が自分の今迄の生活信条。

到着早々から、（超多忙の準備作業を通して）今日まで努めて良い処を探すよう心掛けました、この国の。

“オカシイヨ、何で？”という驚きと“これが無ければネー”という若干の失望感も多かったが、確かに有りました、良い処が幾らか……

（一）若いお娘さん達の足のナガアイこと（これは遠目に見ていて実際に気持ちがいい。物の本によれば、ハンガリー人のルーツは九世紀頃のバイカル湖周辺のアジア系遊牧民族というが、この彫りの深い顔、ナガアイ足が何でアジア？？？ 我が体系を見て世の不公平を恨んでも始まりません）。

（二）肉類のコツテリした料理、サラミ、ハム、チーズ、ヨーグルト等々

の乳製品。いいですネー（個人的な趣向の問題かもしれませんが……）。

（三）アルコールの種類が豊富で安いです（過去二度肝炎を患っている私には無縁ですが）。

（四）道路が実に判り良いです（地図を持って、狙った utca を行けば必ず到達する）。

（五）皆、普通には外人に本当に親切です（仕事、生活等で利害が絡まない場合は。地方では、我々が“道などを聞くと”手を振り、ダメダメ、して逃げるように行ってしまう人もいますが……これは日本でも同じですからお相子です）。

（六）マジヤール語は（一部ドイツ人、ロシア人を除いて）大方全ての外人には “チンポン、カンポン”です。要は、ここではどんな（英語がペラペラ）英米人においても我々語学不得意日本人と互角です（皆、“お客さん”の域から出れません）。

其二

昨年後半から、登記関係、銀行／会計事務所／監査法人折衝、財務／経理手続、求人、会社諸規則作成、その他オフィス・インフラ等の整備計画等々を主にブダペストの借り事務所で行い、時に(ブダペスト東北)一〇km離れた建屋建築中 site ヘレントカーで行き、状況視察と現地での求人等々、真冬の最中でホトホト疲れたあの頃です(実は、私は当地へ来る直近五ヶ月までの一二年連続で、年中常夏(二五・四〇度)の東南アジアに居を構えていたこともあり、昨年の越冬は戦戦恐恐でした)。

なにが大変か?といえは、まず上記諸事項を進める上で “マジヤール語” が前途に壁を作ります(全ての書類等が其の言語です)。マジヤール人から “ここにサインしろ” と云われればそうしますが、内容が不詳ですから気持ちのいいもんではありません。また、当国ではサインすべ

き書類が多すぎます。

人の採用においてもしかり。弊社では(事情があつて)、本来一番早く採用して準備期間の “助さん、格さん” をやって貰うはずの最年長マジヤール人(人総 G. Nagy)の入社が約二・五ヶ月遅れたため、結局、自分がブダペスト、site 両方で約一四〇人の採用試験、面談を実行しました。またまた、疲労困憊です(水戸黄門は助さん、格さんが傍に居てこそその実力が十二分に発揮できるのです)。ついていたのか、結果的には、良い人達がとれたと思います。

今春、CFN承認も受け、建屋も竣工し設備も導入し(全てが time schedule との戦いで相当ダマシダマシのきらいもあります)、表向き格好だけは何とか繕いました。

今日まで未だ立ち上げ途中ですが、三人の日本人駐在員+五二人の現地社員で相変わらず悪戦苦闘中です。今年一月から九月末(予想)までに、

弊社は延べ人数(六九〇人/日。人)の支援出張者、顧客来訪も受け入れており、実際、戦場以上の混乱と疲弊の日々を送って居る現状です。立ち上げというものは、こんなもんなのでしよう。

其の過程で経験し、又、痛感したハンガリーという土俵上の問題点、弊害も “私が当国を好きになった数以上” に有りました。

(一)会社/工場の運営上では、何事においても官庁/法律がついて廻りませんが、相手の要求するもの、手順の全貌が見えにくいこと。“隠し玉、変化球” が結構でてくる。

(二)申請等の日時は厳守なれども、その後の役所/官庁の作業スピード、が非常に遅い。要求する書類、資料が多すぎる割には、審査内容が雑な印象あり。

(三)契約等の形式にはも拘るけれども、その内容遵守、履行には大雑把。

(四) 労働者が、結構法律等で非常に守られていることから、競争意識(生存競争)に希薄。要は、今後EU市場、延いては世界市場で打ち勝つて行くための心構えが不十分。中東欧諸国のレベルはよく知っていても、本当の市場経済圏を未だ実感していない。

其三

我々は、縁有って当地に草鞋を脱がして頂いている。従い、この“縁”は大切にしてゆきたい。当国も、今までの長い旧体制時代からやっと最近“市場経済化”に歩み始めたばかりの赤ん坊(弊社と同じで、今からやっと本当の一人歩きを目指す)、そんなに性急な期待感、要求ばかりを求めても無理なことは承知済み。もっと、長い目で理解をしてあげたいと思う現在の心境です。世界には、幾多の種類の国があり、そこで生活を営む人々も又、独自の文化習慣に

育まれて皆生きている。大事なことは、ここは日本ではない、という基本の理解と認識。要は、異なる民族、文化のぶつかり合い、葛藤の中からは、決して“単一の(どちらかの要因だけの)結論は出て来ない。上手く融合しあつたものを引き出す努力が大切であろう”、自分の長い海外生活から、痛感する次第。とは云うものの、オーイ、マジヤールの皆さんよ、ここだけは早く何とかしてよネー”

一・約束と時間はしっかり守ろう。
二・自分の生活中心主義を、もう少し集団生活の側にも軸足を移してよ。
三・黙々と並ぶことも大事だが、CS(自分がお客様の立場で)にももっと注意を払ってよ。お客の声は一番大切ですよ。
四・もう少し“笑顔(微笑み)”を意識しましょう(本来、いい顔してるんだから、微笑みがあると凄く魅力的な民族になると思いますよ)。

五・もう少し、禁煙について考えませんか?
以上、取りとめも無いことを書きました。皆さんはどう思われますか?

素晴らしきかなハンガリー

オーテック(ユージン)

宮下幸治

私が始めてハンガリーを訪れたのは確か、マジヤールスズキさんがエステルゴムに工場を建設している最中の一八九二年夏だったと思います。日本では見られないヒマワリ畑を見て感動したのを覚えています。

当時、私は日本でスズキさんの営業担当をしておりスズキさんがハンガリーで自動車を造るので、部品メーカーとして協力してもらいたいと要請があったのが始まりでした。その時はハンガリーの部品メーカーに技術援助するためのメーカー調査で一週間ほど滞在しただけでした。当然、ここに工場を建てて自分が駐在するなどは夢にも思っておりませんでした。

それから八年後の二〇〇〇年の夏、

今度は当社がハンガリーに工場を建設する事になり、社内で唯一のハンガリー通(一度来たことがあるという事で)である私が、工場建設からその後の運営まで任命されることとなりました。

八年前に来た時は現地の会社を見るだけで半分観光気分?でしたが、工場を建てて稼働させるとなると状況がまったく違ってきました。

当社のモットーは「早くしろ」。二〇〇〇年夏にヨーロッパへの工場進出を決めて半年でサイト、工場規模を決定、一年後の二〇〇一年には稼働、年末までに得意先に納品を開始しろがトップ命令。これはかなりやばいと思い、スーツケース一つでとにかくハンガリーへ飛んで来たという感じでした。

やはり外国での工場建設にはいろいろと問題が出て来ます。多分ほとんどの進出された会社の方がご苦労されたと思われませんが、特に役所関

係での認可の取得ではかなりてこずったものです。一番始めの工場建設許可、次にカスタムフリーゾーンの認可、最後に工場の稼働許可は計画通りになかなか認可がおりずかなりハラハラドキドキさせられたものです。

もう、日本に予備の製品とか設備のバックアップは無いし、これは一体どうなるんだらうと思ったのも度々でした。

この難局を当地でいろいろと経験のあるハンガリー竹中さん、ハンガリー伊藤忠さんに助けて頂き、おかげさまで昨年一〇月に無事予定通り工場を稼働させることが出来ました。改めてこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

さて、工場の稼働の方が何とか軌道に乗り始めると、今度は自分の生活の問題です。

約半年のブタペストでのホテル暮らしの後、工場のあるキシユベール

での生活基盤を作らなければなりません。キシユベールと言っても多分ほとんどの方がご存知無いと思えますので少しご説明をしたいと思います。

場所的にはブダペストからM1でウィーン方向へ八〇km走ったところでM1を下り、交叉する一三号線に乗り南に二〇km程下ったところにあります。さすがにブタペストから一〇〇km離れていることがあって工場を建てるには最適の環境なのですが、日本人が暮らすにはどうかという場所柄です。当社に積極的に誘致を勧めていた市長の説明ではスーパーが二軒もありレストランも二軒もある、しかも総合病院も完備しているとのことでしたが、実際に生活を始めることや先ず毎日の食事で困ってきます。

残念なことにはここには東洋人がおらず、日本料理はおるか中華レストランもありません。外食をするとな

ると脂っ濃くて塩辛いハンガリー料理しかありません。これを毎日食べていると赴任任期満了の前に寿命が来るのではないかと言う不安感に駆られてきたものです。

確かに二軒あるスーパーでも野菜、肉等の食料品は安く買えるのですが品数が少なく一度に買う量が1kg単位なので一暮らしの身には半分も食べないうちに腐ってくるという感じます。そんな訳でせめて生活は中華にありつけるところにしようと思われ、ガリーの地図を片手に住宅探しを始めました。工場に三〇分ぐらいで通える何処かいい所はないかと東西南北を見て歩いたところ、M1上のブタペストとウィーンの真中あたりにジヨールと言う町を見つけました。人口一〇万人ほどのこの町には待望の中華レストランが大小含め四件、又かなり大きいスーパーもありしかも映画館（つい最近までハーリー・ポッターを上映していて、七〇〇フォ

リント）、床屋（これがまた安くて早い、一二〇〇フォリント日本の五分の一以下、時間は一分五分足らず）の入っているモールまで揃っています。

余り日本人用の観光コースには入っていませんがすぐ近くにユネスコの世界遺産に登録されているパンノンハルマがあり、又市内には市役所を始め歴史的な建造物がいたるところにあります。一目でもうここしかないと思わずに不動産屋と契約をしました。ちなみに家賃は一〇万フォリントです。現在、いつの間にか同居しているハンガリーのネコのマチカと二人暮らし、住み始めて約一年近くなりましたが住めば住むほど味わいのある町でかなり満足しております。お近くへお越しの際は是非お立ち寄りください。マチカをご紹介します。かなりの器量良しのネコです。

工場稼働から約一年経ち、ようやく工場の生産も落ち着きはじめてまし

会社紹介

Taiho Corporation of
Europe Kft.

賀来 芳弘

たので、是非今年は昨年ほとんど見ることの出来なかつたブタペストや他の観光スポットを訪れ仕事以外でのハンガリーを体験したいと思っています。それからグヤシユスープリのハンガリー料理を味わってみてと思っています。

どなたか、安くて美味しい日本人向けのハンガリー料理のお店をご存知でしたら是非ご紹介をお願いいたします。

大豊工業（株）のヨーロッパ生産拠点として、二〇〇〇年四月に設立されました。ブダペストから五〇kmほど南のウイハルチャンという人口二〇〇〇人の村に工場があります。今年四月末に自社工場が完成し、カーエアコンコンプレッサの摺動部品を生産しています。それまでは、現在の工場から二〇〇メートルはなれたところの貸工場で生産を行なっていました。

大豊工業という会社をご存知ない方のために、簡単にご紹介します。本社は、愛知県豊田市にあり、自動車部品を生産販売しています。自動車部品の中でも、トライボロジー

に関連した製品を主として手がけています。余りなじみの無い横文字ですが、摩擦/磨耗・潤滑に関連した技術分野をこのように言います。代表的な製品はエンジン軸受です。皆さんは、軸受というとボールベアリングとかローラーベアリングのようなものを連想されると思いますが、当社で生産している軸受は一般的には外部からは見えないことで使われ、形が全くちがいます。軸受ですから、目的は軸を受けることです。ボールベアリングのようなものは転がり軸受と呼ばれ、当社で生産しているものはすべり軸受と呼ばれています。

転がり軸受には寿命がありますが、すべり軸受は、油の膜があれば永久的に使い続けることが可能です。油の膜があればと言いましたが、薄い油の膜（一ミクロン以下）で大きな荷重をささえることが出来るような工夫をして、摩擦を極限まで下げる

技術が必要となつてきます。

この専門技術は難しい話になつてしまうので、ハンガリー工場に話しを戻します。

ハンガリー工場では、カーエアコンコンプレッサ用摺動部品を二〇〇一年一月から生産し、現在の客先はデルファイカルソニック(フランス)、デルファイカルソニック(ハンガリー)です。車のエアコン装着率は、皆さん推測がつくと思いますが、ヨーロッパはまだまだ低く、米国、日本は高くなつています。夏の暑い時にブダペストのタクシーに乗つて、冷房が効いていると何となくではなく、はつきりと『得』したような気持ちになりませんか？

欧州でのカーエアコンの生産工場は、上記の客先のほかにも増えつつあり、まさに狙い目の市場と考へています。

当社のこの摺動部品は特殊軸受と呼ばれ、世界市場で約七五%の占有

率を有しています。日本のほかに、米国、ハンガリー、インドネシア、韓国の大豊海外工場で生産されています。

現在、日本人二名含め全従業員二六名が働いています。今年の年末からは、主力製品であるエンジン軸受の生産が始まります。このために、ハンガリー従業員第二陣が日本に研修に出かけています。この小さな村から日本へ行つた人は今までに無く、第一陣の人は日本文化にも触れ頼もしくなつて帰つてきました。今後これら製品のほかに、量産立上りが予定されているものがあり、大豊の欧州唯一工場としてハンガリーに根付いて行きたいと考へています。

随想

ハンガリー生活を振り返つて

手島 まゆみ

「ハンガリーには何でもあるよ。」主人のその一言を信じて、一九九八年八月私と二人の息子はハンガリーにやつて来ました。空港から自宅への道のり、不安と期待に胸を躍らせ・・・いやいや体全体がガタガタと揺れ、主人の運転がまた一段と乱暴になつたのかと思いきや、そう道路がぼこぼこなのです。

翌日、主人は当然のごとく会社へ。そこへF夫人から、買い物へのお誘いの電話を頂きました。Fさんの車でKolosy Terへ連れて行って頂きました。まず、今は無きスーパーユリウス(現マツチ)へ。くるーと一回り。何もカートに入っていない！「新鮮な野菜・果物はどこ？あの大きな肉の塊はなに？魚屋はどこ？」と言う

心の声を押しやり、何とかヨーグルトと牛乳を入れレジへ並びました。するとFさん、バッグからごそそと買い物袋を取り出して、私に下さいました。もちろん卵パックも持参です。私は頭の中で冒頭の主人の言葉を反芻していました。次に向かいの市場へ。ここは野菜や果物がまだ新鮮。でも何だか昼間から赤ら顔のおじさんがうろろしていて、怪しげな雰囲気を感じました。気を取り直し、近所のABCへ行き、ため息が出てしまいました。「ハムとチーズでは夕食が作れない！」と。

主人は毎日、ブタペストから南西へ約六〇キロの町セーケツシュフエへールバールへ通勤しています。単身期間中は、帰宅途中のオーシャンやコーラで買い物をして帰る生活でしたので、さほど不便を感じなかったようです。私は物事を余り深く考えない性格なので、「何とかなるさ」と軽く考えて赴任して来た事を後悔

しました。また前回の赴任地・アメリカ・テネシー州での経験もあり、甘く見ていたようです。そこは、一軒も日本食料品店・レストランの無い田舎町でした。けれども、近くのスーパーには魚売り場もあり、頼めば肉も薄切りにしてもらえました。その上、当時一歳と三歳の息子を連れての買い物も快適でした。レジでは品物を次々に袋に詰めてくれ、車のトランクにまで入れて貰えました。もちろんチップを渡しますが……。

さてそれから私は、毎日生活に必要な単語のコピー（ハンガリー語／日本語）を持ち、店の棚の前で何分もじっと考え込む日々が始まったのです。でも努力の甲斐も無く全然理解できません。と言うより辞書に載っていないのです。日本でも少しハンガリー語を勉強してきたのに全く解かりません。辞書が小さすぎるのかと思いましたが、子供の家庭教師の先生に聞いて解かりました。接頭

辞・接尾辞・動詞の活用形と、原形の区別が解つていなかったのです。赴任十日目には、子供達の学校が始まりました。日本人補習校とアメリカンの四年と五年です。上の息子は六年生でしたので、入学試験を受けましたが、全く話せず受からなかった。一学年落としました。当時は四年生までがLower、五年生以上がUpperと分かれていました。Upperは十二区のChinboroにあり、賃貸の校舎でした。五年生の息子が初日、必要な文道具のリストをもらって来ました。現在のように、スクールスターも無く、全て自分で揃えなければなりません。翌日から、私の文房具店廻りが始まりました。しかしアメリカンスクールの指定する物は、ハンガリーの学校では使われないものが多く、なかなか見つかりませんでした。

宿題の面でも一年目は本当に大変でした。毎日のように出る宿題！最

初は一生懸命書き写してくる文字が読めなくて（先生の字も読みにくい上、本人も英単語を知らないため）やっつけていかに怒られたこともありましたが。クラスに日本人は一人なので聞くことも出来ません。家庭教師にも週一回来て貰いました。優秀な学生だったので、休みが多く、あまり当てになりません。毎日帰りの遅い主人に「難しい宿題があるから早く帰ってきて！」と電話をしたり、プリントなどコピで送れる物は会社に送り、答えを書いて返してもらうなど・・・毎日「お帰り！今日の宿題は？」と言うのが日課でした。補習校のある日は、子供達の帰宅は七時過ぎです。二つの学校に通うのは大変と思いましたが、むしろ補習校から帰ってきた時の方が元気なのです。友達と日本語で思いつきり話が出来るからです。友達や先生方の励ましで、何とかアメリカカンに通っていると言う状態でした。しか

し、二年目に入ると、びっくりするほど親が手伝う機会が減りました。子供達が落ち着いて来た頃、私の生活も急変しました。まずマムートが出来て、ロージャケルト、ウエストエンド、ロージャドンプに、うさぎ屋と、どんどん便利になって来ました。もう今では、無かつた頃の生活が思い出しにくいほどです。先日も最近いらした方に「以前はどこで買い物をしていたの？」と聞かれ、答えに詰ってしまいました。でも、私達より二年位前にいらした方は、郊外型スーパーも無く、冬の市場に行っても、あるのはジャガイモと玉ねぎ・にんじんだけ？だったそうです。そのせいか、誰かが白菜を見つけたら、電話連絡が回ってきたとか・・・今よりずっと不便な分、助け合って生活していた事が伺えます。私もここに来て、色々な方に助けていただきました。主人達は新会社設立の為、もちろん前任者は無く、情

報はほとんどありませんので、他の会社の方から色々教えて頂きました。私の質問に、自分が知らない事でも、知っていそうな方に聞いて連絡して下さったりと、嬉しい驚きもありました。「どうしてそんなに親切なの？」の問いに彼女は「私も来た時にはして貰った事だから、私に返さなくて言いから、またあなたも次の人にしてあげてね」と。その言葉聞いたとき「ハンガリーに来て良かった！」と感激しました。反面、スリ・車の事故・お釣りのごまかし・窃盗・主人の入院・子供のケガなど、嫌な思いをする機会も多く、その度に消極的になってしまいます。でもそこで家にこもらず、勇気を持って外に踏み出すと、楽しい事もたくさんあります。世界各地でご活躍されている方が多いと思います。誰もがその中でも、「ハンガリーが一番良かった！」と言える様なハンガリー生活をお過ごし下さい。

パッケージツアーのススめ

新子谷 ちかこ

ハンガリーへ来て二回目の夏を迎えた。ハンガリー語での会話もままならない毎日であったが、なんと、大胆にもハンガリーの旅行会社主催のバスツアーに夫婦二人で参加してしまおうという計画を立てていた。

某旅行代理店でみつけた、世界各都市のガイド付きパッケージツアーのパンフに載っていたもので、私達が選択したのは「ベネルクス三国とライン下り(ドイツ)」という名の七泊八日バスツアーである。このツアーのメリットは、八日間で四ヶ国、十三都市をめぐるという欲張りツアーであるにもかかわらず、料金は交通費、宿泊費、朝食込みで一人五万円程度という破格の安さである。そして、有名なライン下りでローレライを見たり、運河の街であるアムステ

ルダムやブルージユでクルージングを団体価格で楽しめるというおまけもついている。逆にデメリットは、ガイドはハンガリー語なので、言葉の問題があること。日本語ガイドブックを持っていたのであまり気にしていなかったが、他に参加してかわかったのだが、ホテルは団体客用で少々ヘンピな場所にあること、である。

さて、出発一週間前に旅行代理店へクーポンを取りに行くと、パッケージツアーには付き物と思っていた旅程表などはなく、ただ各地でのお土産品の紹介、各地の気候等が書いてあるらしき紙一枚を渡された。おいおい、ホテルはどこなのか？各都市では何時間ずつ遊べるのか？など数々の疑問は浮かんできたが、お気楽な私達は「ま、いっか。」で済まし、ひたすら出発日を楽しみに待っていたのであった。

出発当日、約四〇人のハンガリー

人バスツアーに私達二名の日本人が混ざった。ガイドらしき女性と挨拶をした。外国へ行くツアーなので、ガイドは英語がしゃべれるだろうとふんでいたが、大誤算。彼女の第一外国語は、私達のまったくダメなドイツ語だった。考えてみれば、確かに行き先はドイツ語圏が多い。英語は少しだけわかると言っていたが、その後彼女は全部ハンガリー語で私たちに接してきた。この旅行は、一年間休み休み少しずつ覚えた私のハンガリー語だけが頼りなのだ。

初日のドイツでの夜、ホテル周辺にはレストランがないので、夕飯は選択の余地なくホテル内のレストランへ赴いた。メニューはドイツ語のみで、英語が少しわかる店員の勧めたものをやむなく食べた。言葉は通じないし、ホテルは人里離れた場所だし、この時点で「どうやらこれは難儀な旅になりそうだなあ。」と暗雲がたちこめたのだった・・・。

翌日、ドイツのライン川沿いの小さな街で降り立ち、初めて「観光」という形になった。ガイドの説明は相変わらずわからないが、それは気にせず楽しく観光していた。ガイドやグループの他の皆について歩き、

リフトにのって丘の頂上まで行くと、急に自由行動になってしまった。おるおるした私たちは周りの人に「何時にどこへ集合？」とハンガリー語でなんとか尋ね、遭難の危機を逃れた。下りのリフト待ちのときに、同じツアーに参加する二組の五十代くらいの夫婦が話しかけてきて、ハンガリー語で少し会話ができたのでうれしくなり、集合場所まで一緒に歩いていった。その後、ライン下りの船に乗ったときも彼らと一緒に歩いて見物した。そのうちお父さん(なぜか私は彼のことをそう呼んでいた。)が「ブドウ畑を見ながらワインでもいかが？」と言って、白ワインをごちそうしてくれた。なんだか温

かくて、私達を非常に安心させてくれた。彼らはその後時々、通じないとかわかっていながらも、話しかけてきてくれて、いつも「何時にどこへ集合？」を聞き逃している私達を気にかけてくれていた。

ハンガリー語の時間の言い方に慣れるまで三日かかった。「明日は八時の四分の三(七時四十五分)に朝食で、九時の半分(八時半)に出発して、アムステルダムまで約一時間なので十時の半分(九時半)に着きまーす。」などと一気に言われると、頭の中で十回くらいリピートしないとわからない。それでも、数字だけはわかる夫に、時間だけは一緒にヒアリングしてくれと頼み、後半は誰にも聞き直さずに自分達で行動することができた。また、各都市を観光していくうちに、バスを降りてガイド付きで観光 自由時間だが、ガイドについていてもよい 集合時間にバスを下車した場所に集合、とい

うシステムがわかってきたので、かなり自由時間がとれた。これができるので、夕飯をホテルのありきたりのメニューから選ぶこともなく、その日最後に訪れた街でその土地の食べ物を食べることができた。それに、夜の空腹時のためにスナックや果物を買うこともできた。他の皆の食事はというと、ハーフボードという選択をしている人が多く、夕食はホテルのレストランで食べていた。また、車内でコーヒーやビール、水、パン、ワインナーなどを売っていて、移動中いつでも買えるようになっていた。確かに簡単で安上がりではあるが：。旅行に行ったら土地のものを食べたいと思うのは我々だけなのか???

帰路ではドイツ国内のかわいらしい街で観光もできたし、本当に短時間にポイントを絞って旅行ができた。これはバスツアーならではのであろう。それにしても、ハンガリー人のマナ

ーの良さには驚いた。車中では、皆おとなしくガイドの話を聞くし、面倒を起こす人など一人もないし、集合時間の五分前にはほとんど人が集まっていた。なにより、場違いに見える私達に皆、親切に話しかけてくれたし、最後には仲間という感じがした。おそらくもう二度と会うことはない人たちだが、旅行が終わって別れるのが少しつらかった。

また別の機会に、やはりハンガリーの旅行会社主催のエジプト旅行に参加した。こちらは、カイロで一日観光の後、紅海沿岸のリゾート地で余暇を満喫するという内容である。ラッキーなことに、この旅行会社のツアー参加者は私達二人だけだったので、カイロでのガイドは現地の英語ペラペラのナイスガイを独占だった。

カイロには初めて行ったのだが、ガイドと専用車付きで案内してもら

えて本当に良かった。というのは、公共交通機関を利用して移動するのは、初心者にはあまりにも酷な場所だ。バスにはドアがなく（開け放し？）、バス停でもないところで、人が飛び乗ったり飛び降りたりするのだ。だいたい交通ルールすら、信号、制限速度、車線は無いのも同然、ルールといえば右側通行であることくらいだ。また、ガイドと一緒に歩いていると、すぐに「ホテルは決まっているの？」「ラクダに乗らない？」「おみやげ見てつて。」の類の人々がまとわりついてくる。それでもピラミッドには感動したし、エジプト料理はおいしいし、ガイドの彼はとてもいいやつだった。

今回のエジプトへの飛行機は、ほとんどが数社のパッケージツアーに参加するハンガリー人だったのだが、彼らの機内での行動はおもしろい。

まもなく離陸するという時まで携帯電話をいじっていたり、（それを注意

しないエジプト航空の人もどうかと思う。）まだベルト着用のサインがついているのに、やたらと立ったり歩いたり（同上）。とにかく落ち着きがない。それと、飛行機が無事着陸すると、全員が拍手する。帰りの飛行機がブダペストに無事着陸したときももちろん拍手だが、その後荷物が三十分も出てこなくていらいらし始めた頃、やっと無事に出てきたときは、それはそれは盛大な拍手であった。

結論を言うと、ハンガリーのパッケージツアーに参加してみるのもいいかもしれない。ただ安いというだけではない。ハンガリー人の旅行のしかたや普段見えない部分が見えたりして結構それがおもしろかったりする。

話題の書籍紹介

ブライアン・グリーン

『エレガントな宇宙』

(草思社、二〇〇一年二月刊)

学校の歴史授業で現代史を学ぶ機会がほとんどないのと同様に、物理学でも数学でも、高校時代までに学べる理論は、高々、一七、一八世紀止まりである。大学の専門課程に進まない限り、日常に使用する数学は整数の四則演算、壁塗りや板張りの面積計算程度で、これなどはギリシア時代の数学の域を出ない。残念ながら我々の科学知識は最先端の水準から見て、何百年も遅れている。人類が宇宙やミクロの世界をどこまで解明したか、これからのような世界が見えてくるのか。本書はその最前線のテーマを噛み砕いて紹介する。

非ユークリッド幾何学

「三角形の内角の和は一八〇度である」、「直線上にない一点を通り、その直線に平行な直線は一本だけ引ける」、「平行線は交わらない」。

われわれが学校教育で教わる数学である。ギリシア時代のユークリッドによって体系化された幾何学(ユークリッド幾何学)の公準の一つだ(平行線公準)。しかし、数ある公準の中で、これだけは基本公理から論理的に導けないことがギリシア時代から知られており、以後の数学者はこの公準の論理的な導出に苦心した。ところが、一九世紀になって、この平行線公準を否定する幾何学が発見された。つまり、「三角形の内角の和は一八〇度にならない」、「平行線は複数引けて、かつ交わる」という公準を設定しても、矛盾無く幾何学が創られることが証明された。ロシアのロバチエフスキーとハンガリーのボヤイがほぼ同時に、「三角形の内角の和が一八〇度より小さくなる」、「かつ、平行線が少なくとも複数引ける」幾何学を樹立した。これが非ユークリッド幾何学である。彼等の発見よりほどなく、今度はドイツのリーマンが「三角形の和が一八〇度より大きくなる」幾何学を樹立した。これも非ユークリッド幾何学で、リーマン幾何学と呼ばれる。

内角の和が一八〇度より小さくなる」、「かつ、平行線が少なくとも複数引ける」幾何学を樹立した。これが非ユークリッド幾何学である。彼等の発見よりほどなく、今度はドイツのリーマンが「三角形の和が一八〇度より大きくなる」幾何学を樹立した。これも非ユークリッド幾何学で、リーマン幾何学と呼ばれる。素人にはいったいこんな幾何学に何の意味があるのかと疑問が生まれる。机の上に描く三角形の内角の和は、歪んで描かなければ、一八〇度より変りようがない。しかし、よく考えて見ると、地球儀の上に三角形を描くと、どんな三角形もその内角の和が一八〇度より大きくなる。外側に膨らんだ三角形ができるからである。つまり、建築現場や家屋の面積計算の仕事には我々の学んだ幾何学で十分だが、地球や宇宙を相手に幾何学を考えると、リーマン幾何学などの非ユークリッド幾何学を使用

しなければならぬことが分かる。

我々の狭い日常視覚の世界と、人間の視覚を超える宇宙やミクロの世界では、異なる原理が作用しており、適用される数学も違うということだ。地球上で人間が経験できる狭い範囲に限定する場合にはユークリッド幾何学が有効だが、ある一定の境界を越えるとそこには非ユークリッドの世界が広がる。学校教育ではこのようなことを教えてくれないが、非ユークリッドの世界を知らない限り、アインシュタインの相対性理論も理解できない。なぜなら、アインシュタインの一般相対性理論とは、重力による宇宙（空間、時間）の歪みの理論だからである。アインシュタインは、宇宙の空間は一樣ではなく、質量の重い星の周りの空間が重力によって変形され歪んでいると考えた。まさに非ユークリッドの世界を物理的に解釈したのである。

アインシュタイン自身は数学が得

意でなく、彼の大学時代の先生（ミンコフスキー）や友人（グロスマン）、妻（ミレヴァ）がアインシュタイン理論の数学的な定式化に貢献した。相対性理論にリーマン幾何学が適用できると教えたのは、ブダペストに生まれブダペストの学校教育を受けたドイツ人のグロスマンである。グロスマンは高校時代にスイスに移住し、アインシュタインと一緒にスイス連邦工業大学に通った。

一般相対性理論の隔年の国際会議は「マーセル・グロスマン会議」と称されている。グロスマンの貢献の大きさに敬意を表してのことだ。本書では、アインシュタインがリーマン幾何学を適用したのは、彼の先見性と非凡さと記述されているが、相対性理論確立のプロセスはそれほど単純でなかった。さらに、アインシュタインは相対性理論ではなく、「光子仮説」でノーベル賞を受賞しているが、ノーベル賞賞金の半分

を離婚した妻ミレヴァに渡した。それほど、彼女の貢献が大きかった。

本書のテーマ

評者は本書を新しい宇宙論を扱ったものだと思い込み購入した。ところが、中身を見るとそうではなく、量子力学の最先端の研究を紹介するものだ。原書の副題は

superstrings, hidden dimensions, and the quest for the ultimate theory. となっている。訳すと、「超弦（ひも）、隠された次元、究極理論の探求」ということになる。なにやら小難しいが、簡単にまとめると、「素粒子の実体はひも（string）のような一次元の物質であり、このひも理論から量子力学が直面している矛盾を解決して、物質の最終的な実体を明らかにする究極理論が樹立される。その理論的な核心となるのが、目には見えない隠された次元である」ことを、非専

門家向けに書かれた書物である。

著者グリーンは現代物理学の世界で有数の天才物理学者と評価されている。アメリカでは第一線の研究者が初級者向けのテキストを書く。日本の大学教授は素人向けのテキストを書くことはない。大学教授は初級テキストなど書くものではないと考えるからである。アメリカには「優れた研究者は優れた教育者でもある」という哲学がある。

相対性理論と量子力学の矛盾

さて、現在の物理学の世界を見ると、地球上の狭い物理現象を説明するのにニュートン力学が適用され、宇宙のマクロの物理現象には相対性理論が、原子を構成するミクロの素粒子の物理現象には量子力学が適用されている。ニュートン力学は相対性理論の特殊理論とみなすことができるから、現在の物理学は簡単にいうと、相対性理論と量子力学から構

成されている。

ここからが問題である。相対性理論と量子力学の棲み分けは、はっきりしているようだが、この棲み分けが不明瞭になる分野がある。それが**ブラックホール**と**ビッグバン**である。

この両者に共通しているのは、非常に大きな質量の星（宇宙）が収縮して非常に小さな体積の途方も無く重い物体に転換されることだ。たとえば、地球が直径二センチ程度の物体に収縮するという事例がブラックホールを生み出す質量に対応する。このような物体の物理解析では、相対性理論と量子力学が収斂する。

ところが、この極限の状態に相対性理論と量子力学の二つの理論を適用すると、非常に矛盾した結果が表れ、説明がつかなくなる。ビッグバンとブラックホールの二つの現象は、相対性理論と量子力学が両立しない事象なのだ。これまでの科学理論の発展から言えることは、この種の矛盾

盾が現れる場合、どちらかの理論が正しくないか、あるいは両方の理論が完全に正しくなく、別の一般理論が必要になる可能性を示唆している。そこでこれを解決する理論として注目されているのが、「**ひも理論**」である。究極の物質は粒のようなものではなく、弦のように振動するひもであり、これを前提して量子力学を再構成すれば、相対性理論との矛盾が解決でき二つの理論が統一されると主張するのが、「ひも理論」である。現在、最高級の物理学の頭脳がこの問題に取り組んでいる。まさに、現代物理学の最先端の研究・論争なのである。

しかし、素粒子の研究ではどこまで物質の実体に迫ることができるのか、何が究極の物質なのかについて、研究者の判断が異なっている。そもそも究極の物質を探ることができないのか、素粒子は無限の階層から構成されているのではないかという予測

がある。だが、「ひも理論」は「ひも」が究極物質だと主張する。「ひも」の織り成す無限の動きが、素粒子の無限性を説明するという。

「ひも」と隠された次元

物体は分子から構成され、分子は原子から構成され、原子は陽子と電子から構成され、陽子は中性子とその他の素粒子から構成されと、究極の物質はだんだん小さくなる。人間世界の1mmは非常に小さな長さだが、素粒子の世界では巨大な長さだ。1mmの何百万、何千万分の1、何兆分の1の世界が、素粒子の世界だ。そのような世界を直接に見ることはできないが、物理学者はその存在を確かめるために原子を分解させる実験装置（加速器）を作ってきた。

ミクロの素粒子の世界は奇妙だ。素粒子の世界では確定的な決定がでない。素粒子の運動と位置は確率論的にしか決定できない。アイン

シュタインがどうしても量子力学を受け入れることができなかった点だ。そのような素粒子の運動は何から成り立っているのか。これまで素粒子は何か粒のような物体だと前提されてきたが、果たしてそうなのか。有限の階層にあるのか、それとも無限の階層から成り立っているのか。

「ひも理論」学者はこれに最終結論を与える理論と自負する。素粒子の最後の形態は「ひも」のような振動運動を行う長さをもった一次元の実体だというのである。ひもが弦の振動運動のように動く前提すると、素粒子の振る舞いを説明することができ、かつ相対性理論との矛盾が解決する。ただし、この理論を矛盾なく樹立するためには、いくつかの理論仮説が必要になる。

その一つの前提が、「隠された次元」(hidden dimension)の存在である。「ひも」理論が新たな量子力学の理論として一般性を獲得するため

には、「ひも世界」が九次元からなるかと仮定するとうまい具合に説明がつくという。地球上の可視的な世界は三次元だが、我々の視覚的な常識をはるかに超える宇宙やミクロの世界はもっと多くの次元から構成されていると考えて不思議はない。身近な事例でも、二次元で構成されるものが、次元の一つが巻き上げられて、見た目には一次元に見えることがある。これを**次元が巻き上げられる**(curled-up dimension)という。たとえば、二次元の紙を丸めて筒のようにして、遠くから見ると一次元の線のように見えるが、そこには次元が一つ隠されている。これは喻えにすぎないが、素粒子の世界にそのような巻き上げられて我々の目には見えない次元が六つあると仮定して、それに我々の知る三次元空間と時間の一次元を付加して十次元のモデルを構成するのである。

隠された六次元を有する空間は、

「カラビ・ヤウ空間（図形）」
（CALABI-Yau Manifold）と呼ばれ、
「ひも」学者はこの空間の位相的性質を分析する研究を行っている。評者がサーフしたら、次のサイトでこの図形の二つを見ることができた。
www.lactame.polytechnique.fr/Mosaic/images/CAYA.11.16.D/display.html

このような六次元空間を前提にした理論では、複数の「ひも」理論モデルが構築され、一つに定まらない。その難点を解決されるための理論が「超ひも」(superstrings)理論で、これは隠された次元を一つ増やして七次元にしたものである。既存の三次元空間と時間の四つの次元を加えて、十一次元空間とも呼ばれる。この空間を前提すると、六次元でモデル化された複数の「ひも」理論が一つに統合されるといふ。だから、「超ひも」理論は大統一理論 (theory for everything) になるというのである。

「究極理論」の可能性

こうして「ひも」学者は、「カラビ・ヤウ空間」という新しい幾何学を樹立し、これを使った分析を積み重ねて、新しい素粒子の世界を理解しようとしている。これが実現した暁には、「ひも」理論はミクロ世界とマクロ世界の理論を統一する究極理論 (the ultimate theory) になるはずだという。「ひも」理論をめぐる熱気が高まる所以である。

物理学者の意気込みは、本書を通してよく分かる。最先端の学者がどのようにして研究をおこなっているかが、ひしひしと伝わってくる書物である。他方、「ひも」理論が究極理論になりうるという議論を、素直に受け入れるのは難しい。なせに相対性理論も量子力学も、物理学の理論として認知されてから、まだ百年も経っていない。長い人類の歴史の中で、宇宙やミクロの世界が分かりだして、まだ数十年しか経っていない

のだ。まして、太陽系の成り立ちや、銀河系の成り立ちや構造についても、その理論的な仮説が立てられたのは最近のことだし、観察データそのものが極めて少ない。生体や宇宙、素粒子の世界についての人類の知識はまだそのほんの初歩的な段階にあるのではないか。

これから人類が生存していく限り、宇宙や素粒子の世界への知識が深まっていく。これからの何百年何千年の過程で、既存の理論をひっくり返すような発見やデータが出てくるはずだ。「ひも」レベルの「素粒子」実験データや宇宙の観察データがほとんどない状況で、数学モデルだけから「宇宙の究極理論、万能理論が樹立される」と考えるのは、その知的営為に敬意を表すとしても、あまりに傲慢、いや楽天的にすぎはないか。とはいえ、物理学が新しい時代を迎えつつあることだけは確かなようだ (TM)。

補習校便り

作文

うんどうかい

一ねん かあちよる べんつえ

だるまはこびがたのしかったです。
ぎんメダルをもらってうれしかった
です。

うんどうかい

一ねん かみや ゆりこ

だるまはこびがたのしかったです。
おかあさんが、おべんとうをつくっ
てくれました。

うんどうかい

一ねん きくぼ かんた

にちようびに、うんどうかいをや
りました。だるまはこびがたのしか
ったです。あとパンくいきょうそう
で二とうしようになりました。パン
がおいしかったです。

うんどうかい

一ねん こいけ たろう

だるまはこびとパンくいきょうそ
うがたのしかった。うずまきリレ
ーが一ばんめがまわった。たまいれが
一ばんかんたんだった。ぎんメダル
をもらってぎんねんだった。

うんどうかい

一ねん しみず めぐみ

パンくいきょうそうがおもしろか
ったです。

さいごにぎんメダルをもらいまし
た。くじびぎ二にん三きやくでは、
ふみかちゃんめぐちやんと一とう
しようをとりました。

うんどうかい

一ねん とやま ふみが

にちようび、うんどうかいが、あ
りました。いろいろありました。

くじびぎ二にん三きやくで一とう
しようになりました。めぐみちゃん
も、一とうしようでした。パンくい
きょうそうは、ちよつとむずかしか
ったです。うずまきリレーははじめ
てやりました。さいごにぎんメダル
をもらいました。とてもうれしかつ
たです。

つぎもうんどうかいでぎんメダル
をとれるようにがんばるぞ。

うどんどうかい

一ねん はし ゆういちろう

パンくいきょうそうでいっとうしようでした。

たまいをしました。

それで、ぎんメダルをもらいました。いもうとはきんメダルでした。

かったこと

一ねん やぶき ひろむ

かってうれしかった。

そして、きんメダルをもらったこと、そしてようすけくんに、二ばんにすきっていわれたこと、みきとくんのひみつきちにはいれたこと。

かってうれしかった。

金メダルもらったよ！

二年 上さか みどり

うどんどうかいをしました。

さいご、けっかはっぴょうでまけたとおもったけど、おおきいおねえさんが、

「白組百五十たい赤組百五十五、なので赤組ゆうしよう！」

といったので、うれしかったです。でも、なんでだ？と思いました。

なぜかというと赤組はほとんどまけていたからです。でも、きょう、なぜかわかりました。なぜかというと、

白組がはんそくしたからです。なぜしたかというと、先生がおしえてくれました。

うどんどう会でうれしかったこと

二年 木村 たける

ダルマはこびやうずまきリレーで白組が二かいもはんそくをして、赤組に点が入りました。

パンくいきょうそうで、ほんとうは、ジャンプしてパンをとろうとしたんだけど、やっぱりやめて、ふ

つうにつかんで、下にひっぱって、

パンをぶら下げているせんたくばさみみたいなものから、パンが入っているふくろをとって走りました。一

いになれなかったけれど、ぎりぎり二いになれました。

それで、けっかは、白が百五十点で赤が百五十五点で、金メダルをもらってうれしかったです。

パンくいきょうそう

二年 小林 えみ

パンくいきょうそうのパンは、おいしかったです。パンくいきょうそうは、むずかかったです。それは、

ひもがゆらゆらとゆれて、口でつかむのがむずかかったのと、手ですべてはいけなかったの、むずかかったです。

はしったけっかは、三いでした。きよねんよりはやくはしれたのでうれしかったです。

わたしのいもうとはいいものなあと、おやこでデートをやりました。わたしの組は赤組で、金メダルをもらいました。

パンくいきょうそう

二年 とよ田 げん

パンくいきょうそうは、むずかしいです。さいごは手をつかいました。なぜかというと、きつかったからです。パンは、すごくおいしかったです。でもぼくは、パンをれいちゃんにあげました。でもおかあさんがパンをくれました。パンくいきょうそうは、おもしろいです。でもぼくは、パンをちよつとしか食べませんでした。なぜかというと、おなかがそんなにすいていなかったからです。パンくいきょうそうではびりでした。でも、さいごは金メダルをもらいました。

金メダル

二年 林 ひろき

ぼくは、金メダルをもらってうれしかったです。なかの先生がきとうにくばっていたから、ぼくは、金メダルをもらったのです。

パンくいきょうそうで、一年せいがつかんで口にくわえてはしつたら、ぼくが二ばんになりました。

うずまきリレーで白組がまけてくやしかったです。

二人三きやくで、げんとやってーばんになりました。

フォークダンスでおかあさんといっしょにおどりました。

ダルマはこび

二年 みどり しゅんすけ

ダルマはこびで一ばんさいしょにぼうがとれたから、ぼうにテープをいっばいはりました。二回目も三回

目もこわれたから、ぼくは三回もダルマはこびをやりました。四回目にやっとできました。とちゅうでかっていたのに、だれかが、ダルマをもってはんそくをしたので点が入りませんでした。はんそくをしていなかったら、たぶん赤チームと黄チームがかっていたかもしれませんでした。もし、かっていたら金メダルになっていたのに、はんそくをしたから、銀メダルになってしまいました。

楽しかった運動会

三年 くり田 かずまさ

ぼくは、ほしゅう校ではじめて運動会をしました。

パン食いきょう走をする前は、ちよつといやだったけど、やってみたらすごく楽しかったです。リレーは、あと半分くらい走っていたらいいなあと思います。フォークダンスの時、リズムがくるってしまっただけど、

あとからリズムが分かっってきました。

「ごはんが終わったら、「インタビユーみきと」をしました。まずは、

仲川先生に聞きました。その次は、島田先生に聞きました。そのあと陽介くんも入ってきました。次は、前の人のかたをもつてならばました。そして、みきとくんが、ハンガリーの人に「ドユー ユー ライク うめぼし」と聞いたけど、むしされてしまいました。次は、坂井先生に聞きました。

中学生のリレーはすぐに終わってしまいました。けっか発表の時は、すぐどきどきしました。白組が負けてくやしかったです。でも、しょう品とぎんメダルがもらえてうれしかったです。すごく楽しかったです。

運動会

四年 小がさ原 健太

九月十五日に運動会がありました。一番楽しかったのがうずまきリレーです。エリック君とたくみ君とひろき君とぼくでぼうを持ちました。ぼくは内がわでした。走っていると、一番外がわのエリック君はたいへんそうでした。

二番目に楽しかったのがパン食いきょう走です。

「あが、うぐ、おげ、がぶ。」ぼくがパンの入ったふくろをくわえました。その後ゴールまで走りまわりました。三位でした。ぼくは三位までにはなりたいたいと思っていたのでうれしかったです。

運動会の結果では白組が負けてしまったけど、楽しかったです。

ハンガリーで最後の運動会

四年 大河内 瞳子

「位置について、よいい。」
「バーン。」

リレーが始まった。私はとてもきんちようして心がどつくんどつくんおどった。去年より走るきよりが長かった。白組の中では、私は六番目に走る。バトンを受け取った時はドベだった。全速力で走った。二人ぐらいぬかした。私がバトンをわたす人、健君が

「早くしろー。」
とさけんでいたので、ぐっとうでのばしてバトンをわたした。長いきよりだと思っただけれど、すぐ走り終わってしまった気がする。アンカーが走るまでずっと心の中で（勝ちますように。）と、言っていた。でも結きよく、白組は最後になってしまった。

へい会式での結果発表の時間、私

の心はリレーのどっくんよりも、もっと大きく強くおどっていた。

「赤組百五十五点。白組百五十点。」

五点差で赤組の勝ちです。」
と、みきちやんが言った。私はとてもくやしかった。でもだんだん空が晴れてきて、私に

「よくやったね。」

と、言っているように元気が出てきた。

運動会

四年 くり原 こうへい

ぼくには、初めての運動会だったから、きんちようしました。雨がふってきそうだったので、中でやりました。

ぼくには、パン食いきよう走が、一番やりたいきようぎでした。パン食いきよう走の時は、二位だったけど、その後に食べたパンは、おいしかったです。

その後、外が晴れてきたから、外へ出て、短きより走とリレーをやりました。でも短きより走は三位でした。むかできよう走の時は、練習した時よりも、すぐくはやく進んだからよかったです。

フォークダンスは大きなわになつて、おどりました。それはぜんぜんおもしろくありませんでした。

でも楽しかった運動会でした。日本とくらべると、お父さんとお母さんがやるきようぎがすごくいっぱいあったなあと、思いました。銀のメダルがもらえたのでよかったです。今度の運動会では、勝って金メダルがもらえるといいなあと思いました。

初めてゆう勝した運動会

四年 よし原 みさき

日曜日は寒かったです。

リレーは私の一番好きなきようぎです。私は九番目に走りました。一

分もたたないうちにバトンが回ってききました。私は全力で走りました。すると、二人もぬきました。リレーは黄色組が一位になりました。全力で走ってよかったです。

赤と白は、五点差で赤がゆう勝しました。最後の運動会でゆう勝できてよかったです。一番ドキドキしていたきようぎで一位になれたのは、うれしいことでした。

運動会が終わってすぐ雨がふってきました。ちょうど終わった時にふってきてよかったです。楽しくてドキドキした運動会でした。

ハンガリーで初めての運動会

五年 細川 萌里

私にとっては、今回が初めての運動会でした。しかも、外国人とするのも初めてでした。私はきん肉つうになつてしまったので、短きより走が心配でした。短きより走はなんと

か三位でどべにならなかつたのでよかつたです。リレーは、後の人がバトンをおとしてしまったので、小学生の部はどべになつてしまいました。高学年はミスもなくどべにもならなかつたので、よかつたです。二人三きやくは、だれとなるのかどきどきどきどきしていました。私のパートナーはハンガリー人でした。どべになつてしまつたけど、ゴールした時、ハンガリー人が「ありがとう」と言つてくれたので、どべだつたけどなんだか一位になつたよううれしい気持ちになりました。パン食い競走は、なかなかうまくパンが取れませんでした。でも、けつきよく取るこゝとができて、三位になれたのでよかつたです。ゆかちゃん、しょう子ちゃんは、やつぱり速いなあと思いました。来年は、もうちょつとがんばろうと思います。パンはおいしかったです。つな引きは、二回ともあつたように勝ちました。ムカデ競走は、

練習の時はとても速かつたのに、本番はとてもおそくなつてしまつたので、とても残念でした。フオークダンスはお母さんも入つてきました。やつと終わつたと思つたら、また曲が流れ始めました。みんな、「またー」という感じでおどり始めました。やつと終わつたので、「やつと終わつたか」とほつとしました。

私は、白組が勝つと思つていただけ、五点差でけつきよく負けてしました。でも、とても楽しかつたです。来年は、金メダルをめざしてがんばります。

つかれたあ・・・運動会

小六 小野田 陽

九月十五日、運動会がありました。僕が一番楽しいと思つた競技は、短距離走です。ハンガリー人の人がすごく速かつたです。

去年のパン食い競走のパンは、お

いしくなかつたけど今年は、すごくおいしかつたです。中にはいつていたとろけたチョコレートが、もう、おいしすぎる。ほつぺたが落ちるほどに。でも、僕にとっては、本当にほつぺたが落ちて欲しかつたです。なぜかというと、やせられるからです。ほつぺたが・・・。来年は、ほつぺたが本当に落ちてくれるよう、チョコレートを、もっとおいしくしてもらいたいです。

来年も楽しい競技やおいしいパンのため、運動会に飛んで行きます。

六回目の運動会

小六 上原 康士朗

僕にとって、今年の運動会は六回目になりました。もう、そんなにたつたかなあ、と思ひながら、運動会の日を迎えました。

うちの組のリーダー本君は、「まあ、勝つても負けてもいいから、

がんばろう。」
と、かけ声をかけてくれました。ぼくは、反則をしてもいいから、ただ、走ろうと思いました。

僕はその通り、反則をしました。でも僕は、人は間違いをする、と後で思いました。ただ、今度の運動会では反則をしないようにがんばるぞお。

僕には心残りがひとつあります。それは、むかで競走で実力がはつきできなかったので、次回は実力をはつきしたいと思います。
最後に、昔は競技の種類が少なかったので、僕としては、昔のように競技をへらしてほしいなあと思います。よろしくお願いします。

二人の思い出

中一 大河内 薫子

この子、薫子っていうのか。速く走れるのかなあ？でも、この子少し

太いしなあ。オレは赤色のハチマキ。毎年運動会になると、くさい汗の臭いがしみ込んで気持ち悪いんだよね。薫子ちゃんがオレの事を首にかけて走り出した。オレは左右に揺れて、すごく疲れる。でも薫子ちゃんのうれしそうに優しそうな顔を見ると、オレはいい気分になるんだ。彼女の笑顔はとてもきれいだった。不思議だった。

でも、パン食い競走の時だけ、オレは悲しくて、薫子ちゃんがかわいそうだった。あの笑顔が作り物に見えた。本当は泣きたいんだって、オレは思った。パンが彼女の手の中で強く握り締められていて、今にもチヨコが飛び出しそうだった。と思つたら、薫子ちゃんはオレを首からはずしたんだ。彼女の太ももは温かかった。でも、心の中はきつと冷たいんだろうなあと思った。ドベなんてオレは嫌いだ。薫子ちゃんも嫌いなんだ。毎年ドベなのかあー。オレ、

今まで一度もこんな子に会ったことはなかったよ。純粹だけど弱音をはかない強くて立派な子。薫子ちゃんの両親は笑ってあげてた。だから薫子ちゃんも泣いちゃダメって思ったのかなあ……。一瞬、彼女がオレのことをギュツて、握り締めた。オレは苦しかった。息が苦しいんじゃない、と胸が。

この思い出は二人だけの思い出。オレと薫子ちゃんの思い出。洗濯機で洗われても、がんばって、刻み込んでおくさ。ね？薫子ちゃん。オレは赤色のハチマキ。薫子ちゃんは最高のオレの一番さ！！

二度目の運動会

中一 村松 佳奈

九月十五日。私にとって二度目の運動会だった。二度しかというか、二度も、というか分からないけれど、

なぜか運動会の前も当日も、それに対する緊張感というものが全くといっていい程なかった。あんまり緊張してガチガチになるのも嫌だけれど、緊張感がないというのも結構問題かもしれない。もう少し緊張感があれば、「しっかり練習しよう」という気になつて、もつと真剣に練習することができたと思うからだ。でも、他の中学生だつて真剣に練習しているようには見えなかつたし……。こんな事を言うと怒られるかもしれないけれど、どうやら緊張感を持たなかつたのは、私だけではないようだったので、この事は、水に流して当日を待つことにした。

そして当日。最初は外でやる予定だつたようだが、雨のため、体育館での運動会となつた。そのため、スケジュールが大幅に変わり最初のうちはあまり生徒の出番がなかつたと思う。

「なんか、うちの順番ないよね。」

などと、友だちと話しながら、私は本当にこの運動会は、一般の人が参加できる競技が多いんだなあと、改めて実感した。日本の運動会だと一般の人はあまり競技に参加しない。少なくとも私の学校はそうだった。それに、どちらかといえば、運動会というよりも発表会という感じだったような気がするし……。何より、補習校の運動会にはあんまり堅苦しい雰囲気なくて、気軽に参加できるといった感じがある。だからこそ、一般人も一緒になつて楽しめたのだろう。もし、これが堅苦しい感じの運動会だつたら、一般の人だつて参加しがたい。

来年も、今年と同じような運動会にしてほしいと思う。何より、私自身が堅苦しい運動会なんて嫌だから……。

運動会

中二 塘 将太郎

朝、起きて言った。

「やつた〜雨だ。これで運動会ナツシング……。」

と、空を見上げると……

「フギャ〜、雨降つとらへんがな……。」

そして会場のグラウンドへ行つてみると、まだほとんどの人が来ていない。待つこと、十分ばかり、結構人が増えてきて、そして競技が始まつた。

九十九パーセントの競技がつまらなかつたけど最後のリレーだけは良かった。

僕のチームは三位で僕にバトンが渡つた。二十メートルくらい前にE・S先生がいたので、一生懸命走つた。その甲斐あって、残り三センチくらいの差でアンカーに、バトンが渡つた。

僕は疲れていたから見ていなかったけど、アンカーの一樹君は、一人抜いて二位になった。全てはこのオレがE・S先生に追い付いたからだと思っっている。

すべての競技が終わり、結果、僕たちの勝利となった。

運動会後のインタビュー

中二 ? ? ?

九月十五日、その日は運動会。あの人はこうつぶやいていました。

「ラジオ体操やだなあ。」

とか、「なんで運動会があるのかなあ。」などと。

当日。そのある人は、運動会の始めからラジオ体操をしました。その人はみんなの前で体操をしなくてはならなかったのだ、恥ずかしかったそうです。

その人はできれば次回の運動会で

は長距離走をしたいそうです。ただ、それが実現したとしても、恐らくその人は、その時にはもういないだろうということでした。

最後に、その人から一言ありました。

「僕の名前は古川裕也です。ありがとうございました。」

以上で運動会後のインタビューを終わらせていただきます。

様々な違い

中三 上原 彩香

「ああ、のど痛い・・・」

それも、運動会で一日中叫んでいたせい。一応黄組のキャプテンだったから、

「黄色く、黄色く。」

つてずっと叫んでいた。特に応援もしていなかったから、他には叫んだ覚えはないし・・・。

黄組って勝っても負けても、どっちでもいい組なんだ。最終的には紅白になるんだから。実際、結果発表の時も、黄組の子たちは、

「黄色ってどっち？赤？白？」

などと、言っていた。勝ってもあまりピンとこなかったみたいだし。

それに賞品は同じだから・・・。あんなに叫んで頑張ったのに、高校生のほうが良かった。なんて事だっ！

でも、今年は去年に比べて楽しかった。あまり、下級生の面倒をみていなかった。それは、途中まで体育館だったせいかな、狭くて同じ場所に集まらなかったのも関係している。これは言い訳にすぎないのだが。

ちょうど日本でも運動会（体育祭）があった、と友達に聞かされた。中は、中学最後の体育祭だった分、感動で涙、涙の嵐だったらしい。それに比べて、何？この自分の冷めようは・・・なんて思った。

補習校からのお知らせ

補習校の文化祭を次の通り実施します。

日時：二〇〇二年一月一六日（土）

八時四十分より

場所：日本人補習校（BUDAPEST, 11. TOROKVESZ UT 48-54, MORI CZ Zs. 高校内）

当日は、児童生徒による出し物や、出店、作品の展示、またピアノ演奏会等を予定しています。

保護者の方々のみならず広く一般の方にも、子どもたちの工夫を凝らした舞台やお店を味わっていただきたいと思えます。

日本人会・日本人補習校

大運動会の報告

小川 英俊

私もハンガリーに来て、一年半が過ぎようとしています。日本人運動会参加は今回の初めてのであり、特に今回はスポーツ理事にもなっていたので前夜は緊張しました。

開催二週間前に事前の打ち合せでは、日曜日にもかかわらず皆さんに集合していただき、完璧に製本された（表紙はカラー）大会プログラムを渡されたときはみなさんのこの大会に向けた熱意をひしひしと感じました。プログラムの一種目ずつチェックしつつ、これは去年大変だったとか、今年はどうした方が良かったか、非常に頼もしい発言が飛び交い、逆にいまいち流れが分かっている自分分が非常に不安になってきました。

ちなみに運動会に最後に参加したのは高校生の時だったと思いますが、当時は年齢が上がれば上がるほど（特に中学生の頃）、「運動会なんてやってらんねえよ」なんて表立って見せつつも、意中のあの子にばかり自分の勇姿を見てもらおうと、なるべく自分が一番になれそうなメンバーの組に入れてもらうべく、運動委員会に事前根回しをしておくという、政治家のような事をしていたあの日になつかしく思います。

当日はあいにくの小雨がぱらつく天気です。すこし肌寒い感じでありましたが、さすが日本人と思わせたのが、午前中の設営担当者が八時集合という予定だったにもかかわらず、八時前に大勢の方々がすでに会場へ集合されていたという事です。

綱引き用の縄、玉入れ用の籠など、一般のハンガリー人が見たら農作業でも始めるの？なんて思ってしまうかもしれません。いえいえ典型的

な運動会グッズもぞくぞく集まり、いやが上でも運動会の雰囲気は高まっていききました。ただ天気に関してはいまにも雨が降ってきそうで、運動会を外で行うか、中で行うか非常に微妙な状況でした。最終的な判断は日本人補習校校長先生の手に委ねられました。

果たして二〇〇二年の運動会は外で行うのか、それとも中で行うのか。校長先生が下した決断は「ハンガリーの天気はハンガリー人に聞け！」。たまたま近くにいたハンガリー人の設営係のおじさんに注目が集まりました。彼が下した決断は「雨がいつ降るか分からないので、道具を中に動かすなら今のうちだ！」。このある意味でもっともな判断に従い、二〇〇二年の大運動会は併設の体育館内で行われる事になりました。

開会式が終了し、第一種目は玉入れです。日本の子供たちは勿論の事、ハンガリー人の子供達もとても楽し

くやっていたのが印象的でした。誰にでも分かりやすい競技は国籍関係なくみんな楽しんでます。まさしく童心に帰った気持ちになりました。

スポーツ理事としては参加人数が不足した場合は自分が参加し積極的に穴埋めをしていく事をモットーとしていましたので、他に障害物競走や綱引きにも参加させていただきました。でも楽しませていただきました。極めつけは「パン食い競争」です。幼児・児童たちは全員参加してもらい、当然パンもみんなに行き渡りましたが、「では次は一般の方です」というガンマイクからの声が終わるか終わらないかの内にスタート地点には大勢の人が集まりました。時間は十時半過ぎ、お昼にはちょっと早いけど小腹がちょっとすいてきたなあ、という時にパン食い競争！なかなか心憎い演出です。

特にパン食い競争に使用したパン

が非常においしく、ブダペストのパン屋でこんなの作れるの？と不思議がられる程でした。

私が一番印象的だったのが、仕事の中の姿からは想像できない、皆さんの「お父さん」になったときの顔でした。まだ私には子供がいなかったので、なかなか想像が付きませんでした。子供が生まれたらきつと皆さんのようになるのだらうと思いました。子供さんたちもそうですが、親御さんの楽しそうな姿を見て、運動会準備の苦勞も報われました。

幸いにも午後からは外で競技を行う事ができ、徒競走は外の広いグラウンドでのびのび行われました。閉会式の時太陽もできて二〇〇二年大運動会は大成して終了する事が出来ました。

運動会開催にあたって準備に奔走された各ご担当の皆様、本当にお疲れ様でした。ご協力に御礼申し上げます。

第二回ソフトボールバレー

ボール大会観衆之巻】

田村 敏展

今大会は秋の陣である。年に二回だけ開催されるソフトボール大会、各チーム、各試合に数々のドラマが展開し、毎回の如く不思議な期待感と野心、予想もしないハプニングが付きものである。

その日も弊員達は間もかわらず安易な組み合わせに当らないものかと思いを巡らしている。なぜならば弊社の戦術には持続力という物が無い。まったくと言っていいほど粘りが無い。くじ引きの結果、弊社は第一回戦、春秋連覇を狙うS社との対戦が決まった。その瞬間、ある者はグラウンドの土を廃袋にかき集め、又ある者はウンコ座りにタバコをふかす

ただのやる気のないヤンキーとなつてしまった。

こだまする 音色はイツモ

借りバット

弊社所有の野球備品中にはピカイチ・バットは存在しなかった。誰が借り始めたのかは判らないがS社のスーパード・バットを拝借する様になつていた。このバットがまた格別良いのである。そば職人を夢見るA氏はバットの解説をこの様にしていた。『先に重心があるから振込みが無理なく出来る。』

さすが名刀嫌、名バットである。見れば“オー・マイ・ゴー”の国製である。何気なく、さり気無く、気持ち程度に振るだけで！“おーまえがー”（お前が？）と言わんばかりにボールが飛ぶ。結果はなるほど、両者激しいこだま打戦でありました。こんな事を書けばたぶんS社には問い合わせの電話が殺到し、来年のソ

フトボール大会は例年にないホームランの数が飛び出し、ホームランのラインを改定しなければならなくなるのではないかと心配致します。因みに弊社はすにのつてこのバットを借り、今大会は二位になった。

故郷（ふるさと）は

弁当食べて 想うもの

お腹も一段落し、グラウンドいっばいに子供達のはしゃぎ、所々で奥様方の笑い声が聞こえてくるようになる頃、弊員の若衆は白昼夢に誘われるままに横になり願望を述べ始める。こんな時、話題の中心は“心の日本である”。難しくは無い簡単だ。例えば、畳にねっころがりタバコを吸いながら、足なんか揉んでくれたら・・・（最高やるな！）とか、細い路地裏にある小料理屋、和服姿の女将がつくる美味しい水割り、ちよつと気の利く会話を日本語で・・・（極上やるな！）とか、試合を二日に分

け午前中がゲーム、午後はゆっくり露天風呂、サウナ、一泊二日のソフトボール大会・・・(このメンツでそんな事やったら、朝の3〜4時まで飲んで、次の日もっと辛くて死ぬぞ。こりゃ最悪!)とか・・・。

思い想いの浮いては消える白い夢、程よく甘酸っぱい故郷と言うか、心和むひと時が、いつもこの大会のお弁当の後にあります。

さすがです

おてやわらかに サープして

読者の皆様はこの大会が大切な校外学習の場にもなっている事を知っているであろうか? ソフトバレーボールは今大会で四回を数え、参加者は四十名にも及んでいる。参加者六チームが総当たり戦でゲームを繰り広げた。婦人の方々と補習校女生徒さん達が主役のこの大会で子供達が確実に成長していつている事を実感し、目のあたりにする。

『学ぶ』とは『真似をする』ことでもある。実習を通して学習し、自分のものにしてゆく。丁寧に各部署で補習校の先生方はゲームのやり方をきちんと教えている。ソフトボールも然りである。第一回目から比べれば、ご婦人の方々も益々上手くなり、当初ではラリーが続かずテニスのようになっていたらしいが今ではれっきとしたゲームに姿を変貌させている。今回、ある女生徒さんのサーブは婦人達に白旗を振らせるぐらいに素晴らしかったそうである。ソフトバレーの大会が益々にぎやかになっていく予感を確りと感じる事の出来た大会であった。みんな頑張れ!

最後に、

私は少し眺めの良い高台で打ち込んでしまったファールボールを探していたところ、とある幼き子がお母さんと通りすがり際に足を止め、球

場を見下ろしていた。そして、その幼き子は大の大人が筋肉痛に翌日苦しむのも承知の上で無邪気に白球を追う姿を見て、赤いりんごのようなほっぺに溢れんばかりの笑顔を浮かべ、小さな白い手でボールをつかむ真似をした。

この大会の意味がこの光景にある気がした。

第七回ヨーロッパ 日本語教育シンポジウム報告

実行委員 佐藤紀子

秋晴れの爽やかな青空の広がる、去る九月六日から八日までブダペスト商科大学貿易学部において第七回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムが、ハンガリー日本語教師会（MJOT）とヨーロッパ日本語教師会（AJE）の共催で開催されました。欧州二一カ国を中心に、日本、アメリカを含む世界二六カ国から百五余名が参集し、「多元化する日本語教育：日本語教育とコミュニケーション」をテーマに有意義な三日間を共有しました。産声を上げて二年足らずのハンガリー日本語教師会としては、初めて迎えるビッグイベント。六名からなる実行委員会がほぼ一年をかけて準備してきた成果がこの三日間で問われます。

初日、開会式にはマードル・ダルマ大統領夫人ならびに松本和朗駐ハンガリー日本大使のご臨席を賜り、教師会メンバーは感激ひとしおでした。初日の基調講演は山中桂一東洋大学教授による「留学生の日本語」。夜の歓迎レセプションでは後援者から提供された寿司やハンガリー名物グヤーシュ&トカイワインに参加者から歓声が上がリ、歓談の輪が広がりました。

二日目は、ハンガリーからセーペ・ジェルジ・ペーチ大学教授が「ヨーロッパの言語政策から見た言語権と言語政策」と題する講演を行い、この言語政策において非ヨーロッパ言語である日本語が一定の地位を獲得するために、AJEがEUに働きかけを行うよう提言したのが印象に残りました。この夜はハンガリー情緒溢れるカルパチアレストランでジブシ音楽を聴きながらの懇親会が開かれました。参加者はパブリカチキン

に舌鼓を打ちながら、旧交を温め、新たなネットワーキング構築と情報交換をはかるひとときを過ごしました。宿舎への帰途、バスの中からブダペストの光り輝く夜景を眺める機会があり、三日間会場に缶詰となつて勉強に励む参加者には大好評でした。

三日目は、欧州日本語共通教材開発プロジェクトのまとめ役である鎌田修京都外国大学教授が「接触場面の教材化 - ヨロッパと日本を舞台に」と題し、実際の接触場面を撮影したビデオを紹介しながら、この教材開発の理論的枠組みと現状及び課題について語りました。聴衆から共通教材の完成に大きな期待が寄せられました。その後今回のメインテーマ「日本語教育とコミュニケーション」について五人のパネリストによるパネル討議が行われました。司会者はセーカーチ・アンナ・ブダペスト商科大学準教授、パネリストはエシユバツハ・サボー・ヴィクトリア・

チュービンゲン大学教授、ヒダシ・ユディット神田外語大学教授、鎌田教授、川口義一早稲田大学教授、山中教授。討議ではヒダシ教授の問題提起に始まり、各パネリストが意見を述べましたが、最終的には、初級段階からコミュニケーション重視の日本語教育が重要であるという点で意見が一致しました。

三日間で三三の口頭発表、ワークショップ発表が行われ、各セッションで活発に議論されました。内容もマルチメディア利用、文型・語彙研究、OPIなど現代日本語教育の最先端をいくもので、研究発表、授業の実践、現場報告など多岐にわたり、自分の教育現場に持ち帰ってすぐに役立つ、参加者にとって大変嬉しい発表が数多く見られました。MJOT会員による発表も五本あり、大変好評でした。また、ハンガリーからはMJOT会員二四名、非会員八名が参加し、講演やパネル討議、研究発表

に熱心に耳を傾け、ハンガリーの日本語教育界におけるシンポジウムへの関心の高さがうかがわれました。

今回ノンネイティブの教師・学生の参加者が従来を上回り二名近くに達したことは、今後の日本語教育の発展に大きな意味を持つと考えられます。また、旧東欧で初めて開かれたとあって、地元ハンガリーをはじめ、チェコ、ポーランド、ルーマニア、ブルガリア、ウクライナ、トルコ、カザフスタンなど「東」からの参加者が増えたのも今回の特徴の一つでした。□□の今後の進路と同様に「東に拡大する」ヨーロッパ日本語教師会を見る思いでした。

三日間のシンポジウムを無事終了することができたのも、助成をしてくださった国際交流基金本部、後援をしてくださった国際交流基金ブダペスト事務所、シンポジウム実現のために貴い寄付をしてくださったハンガリー在住の団体・個人の方々、

そして準備を含めて四日間の期間中全力をあげて協力して下さった国際協力事業団JICA青年海外協力隊の日本語教師の方々と日本語を学ぶ力ーロリ大学、ブダペスト商科大学の学生達のおかげです。実行委員を代表して、この場を借りて皆様にお礼を述べさせていただきますと思います。本当にありがとうございました。

実行委員会は、まだこの後、講演や口頭発表の報告書の編集と発送という大きな仕事を残しています。実行委員会として最後まで協力を続けながら、やり遂げる所存です。また、ハンガリー日本語教師会は世界の日本語教師会でも珍しく、現在ハンガリー人を会長としています。教師会では、ノンネイティブとネイティブの教師による、教育機関や教育段階を超えた協力と連携をもとに、今後も両者が力をあわせて会を運営してゆきたいと考えています。

拉致とハンガリーの接点

盛田 常夫

金大中事件・拉致合戦・ブダペスト

日本と北朝鮮との首脳会談で拉致の事実が確認されました。一九七〇年代から八〇年代にかけて、北朝鮮の情報機関が日本海沿岸に狙いを定め、若い男女を拉致したようです。拉致が失敗した一つのケースに、私が小さい頃から泳ぎに通っていた富山県の島尾海岸の事件があります。郷里の高岡駅から氷見線が出ていますが、源義経の雨宿りで有名な雨晴の次の駅が島尾です。小さい頃から、夏休みには雨晴か島尾に海水浴に行くのが習慣になっていました。新聞報道によると、一九七八年の夏、北朝鮮から来たとみられる屈強な男四人組みに男女が拉致され、猿轡を噛まされ袋詰めになれましたが、ちよ

うど犬と散歩している人が通りかかり、犬が吠えたために犯人が逃げ出し、当該の男女が救出されたということでした。拉致未遂にあった男性は当時の私とほぼ同じ年齢のようです。失敗したまま情報機関がこのこと国に戻ったとは考えられませんから、別の男女が被害にあった可能性があります。私はちょうどこの年の暮れにハンガリーに留学しましたが、その頃の日本の社会情勢などを思い返して見ました。

この事件を遡ること五年、一九七三年の夏、韓国の朴大統領の政敵金大中氏が、東京飯田橋のグランドホテルの一室からKCIAに拉致・連行されました。五日後に韓国の自宅に現れましたが、当初の予定では袋詰めのまま日本海に沈める計画だったと言われています。この誘拐・拉致を察知したCIAが金氏を運ぶ船と韓国政府に警告し、一命を取り留めたという奇怪な事件です。当時、日

本政府（田中首相）は日本の主権を侵害する拉致事件にたいして、抗議することも原状回復を要求することもなく、事件を不問にする政治決着を図りました。

以前から、拉致の話聞く度に、金大中事件の曖昧な処理が、以後の北朝鮮による拉致活動を活性化させたのではないかという思いが捨てきれませんでした。また、今年の中国審陽における日本の領事館への北朝鮮からの亡命にたいする日本政府の対応も、主権侵害にたいする歴代日本政府の指針に沿ったものだと考えざるをえません。主権侵害にたいする意識の希薄さ、それにたいする厳しい対応の欠如が、戦後の日本社会と政府の対応に一貫して見られます。この甘い対応が、北朝鮮の情報機関に利用されたといえます。外交関係がないという難しい条件はあったにせよ、日本の警察も政府も一連の拉致事件にたいして、ほとんどなす術

をもたなかったのが事実です。

このように振り返ってみると、一九七〇年代から八〇年代にかけて、南朝鮮も北朝鮮も同じように拉致実行部隊をもち、拉致合戦をやっていたわけです。韓国のある映画監督と女優が、金正日の命で誘拐され、ハンガリーに連れてこられたのは一九八〇年代半ばです。映画狂の金正日が国際映画祭で受賞できる作品を創りたいということで誘拐されたのです。ドナウ河畔のハイアットホテル七階のアパートメントに不自由なく暮らせる生活備品とお金が渡され、自由な映画活動を許しながら、ハンガリーに留め置くというスパイ小説のような事件がありました。大韓航空爆破事件の金賢姫がハンガリーを経由していたように、この時期のハンガリーの北朝鮮大使館はアジアとヨーロッパを結ぶスパイ・情報機関の実行拠点の役割を果たしていました。今から考えて見ると、ハンガリー

ーから日本人留学生が拉致される可能性もあつたわけです。もつとも当時は日本人留学生が少なく、北朝鮮も拠点維持のためハンガリー政府との関係を良好に保つことがベターだと判断したのかもしれませんが。あるいは、突然消えた人がいるのに、我々が知らないだけなのかもしれません。先の監督と女優は、数年後にKCIAにウィーンに誘い出され、韓国に戻されました。まさに中欧を舞台にした拉致合戦が繰り広げられていたのです。

独立性を失った日本の戦後外交

さらに歴史を遡ると、北朝鮮を抜きにした南朝鮮（韓国）との単独での日韓条約締結（一九六五年）があります。分裂した朝鮮の一方とだけ、それも朴大統領の独裁制下の韓国との戦後処理ということで、学生運動を中心とした反対運動が盛り上がりました。私が大学へ入学したのはこ

の翌年ですが、金大中事件で政府が強く出れなかった背景には、日韓条約で朴体制を容認したという政治的与件があります。それだけが制約条件ではありません。一九六〇年代から七〇年代にかけて、日本政府は一貫してアジアの独裁国家を容認し、外交関係を保持してきました。韓国だけでなく、ベトナムでも、カンボジアでもそうです。そして、独裁に反対する勢力にたいして、非常に冷たく対応しています。金大中事件の曖昧決着はその論理的な帰結です。そして、そのことが日本での拉致事件にたいする甘い対応をもたらしたことを否定できません。だから、拉致は北朝鮮の問題で、日本政府に責任がないとは言えないのです。もちろん、こうした日本政府の対応は、戦後の東西冷戦という条件を抜きに考えることはできません。一九四九年の中国革命の成功と前後して、朝鮮は北と南に分裂し、一九五

年に朝鮮戦争が勃発しました。アジアでの東西対立は朝鮮を軸に始まったわけです。アジアでの社会主義勢力の拡大を恐れたアメリカは、なりふり構わず腐敗した専制政権を後押しすることで、アジアの「共産化」を阻止しようとした。アメリカは反政府勢力＝共産勢力という単純図式で、南朝鮮では李承晩大統領と朴大統領、ベトナムではゲエン・バンチュー、そしてカンボジアのポルポトを後押ししてきました。ベトナムでもカンボジアでも、アメリカの認識と政策が間違いであったことは、その後の歴史が示している通りです。アメリカの国際政策に従属した日本は、アメリカの政策をそのまま支持してきました。明白に誤りの戦争であるベトナム戦争を遂行したアメリカも、それを後方から支援した日本も、国家としてベトナムに謝罪していません。金大中事件の曖昧決着は、日本が戦後失った外交の独立性から

説明されます。拉致事件への無能な対応はその延長線上にあります。

朝鮮植民地化と朝鮮人蔑視

日本と北朝鮮との間に存在している諸問題をごちゃ混ぜに議論することはできません。それぞれの問題は起きた時期も中身も、また歴史の重みもみな違うからです。拉致事件での感情的な対応は遺族の立場としては理解できませんが、朝鮮との交渉はいわば百年の歴史の総括ですから、交渉する立場の者はより大きな歴史的観点に立つことが要請されます。その意味で、小泉政権の対応は間違っています。

歴史の出発点は、一九一一年の日本による朝鮮併合にあります。日本の朝鮮支配の始まりです。そこから第二次世界大戦にいたるまで、日本と朝鮮の間の悲しい歴史があります。朝鮮人は日本人への同化を強制され、労働要員として朝鮮から日本に連れ

て来られた朝鮮人の多くは「タコ部屋」に閉じ込め、強制労働を強いられたという事実があります。日本人は朝鮮民族を蔑視し、優越性を誇示しました。戦後生まれの私の子供時代でも、日本の家庭には朝鮮人を蔑視する感情や用語がまかり通っていました。今でも、朝鮮学校に通う児童・生徒への虐めがあります。

一九二三年の関東大震災の時には、「朝鮮人が井戸に毒を流した」、「朝鮮独立運動弾圧の仕返しを準備している」という流言によつて、東京や千葉に住んでいた朝鮮人数千人が銃殺ないし撲殺される事件が起きています。太平洋戦争がはじまってからは朝鮮人も徴用されています。朝鮮人慰安婦はその一端にすぎません。多くの日本人にとつて、これらのことはすでに過去の事件です。今更、昔のことを言われてもという感情があるでしょう。それより最近の拉致事件は何だということになります。

いつの時代にも、被害を受けた人々の怨念は消えませんが、日本に連行された朝鮮人家族も、北朝鮮に拉致された家族も同じです。それに比べ、加害者は事件を簡単に忘れることができます。自分に痛みがないと、人はすぐに忘れてしまいます。自分の受けた被害だけをやたらに誇張し大げさに騒ぐのは、往々にして、征服者や覇権者に見られる行動様式であることは、戦後のアメリカの対応を見ても明らかです（ちなみに、ベトナム戦争におけるアメリカ兵の死亡犠牲者は五万人で、ベトナム人のそれは百万人と推定されている）。

北朝鮮をどう変えるか

戦後世界の民主化過程の中で、アジアではミャンマーと並び、北朝鮮は世界の趨勢に逆らい、孤立独裁の道を行ってきました。現在の独裁体制は、政治博物館で「干からびた独裁体制の終末」を見ているようなも

のです。救いようのないほどに社会が疲弊・崩壊しています。他人を見てあざ笑うのは誰にでもできます。しかし、そこから自らの歴史を振り返り、反省することを忘れてはいけません。このような状況の中で、日本が為すべきことは何でしょうか。

日本人拉致事件について、犠牲者と遺族の無念は癒すことはできません。犠牲者が浮かばれるとすれば、北朝鮮が拉致の関与を認めたことで、北朝鮮の権力が変容を始め、民主的な国家として変化していくことでしょうかありません。日本政府ができることは、拉致事件について、主権侵害、実行者の引渡し、犠牲者への賠償を毅然と要求することでしょう。そういう要求を提示していくことでしか、北朝鮮を国際的に常識的な国家に変えていくことができません。

戦後補償の問題は拉致事件とは独立しています。それはそれで誠意をもって対応すべきです。これも国際

交渉で誠意を尽くすことで、相手の交渉態度を変えていく以外に方法はありません。ただ、拉致と補償は交渉問題として独立していても、実際の補償実行では領海侵犯や拉致についての明確な調査と約束の実行を条件におこなうべきです。これまでの歴史を考えれば、いたずらに感情的に対応する論調は危険です。北朝鮮がふつうの国になるためのルールを敷くという確固とした戦略にもとづき、誠意と国際法の遵守を前提に交渉することが、長期的に相互の利益になります。北朝鮮が自らを変革させ、国際社会に復帰することでしょうか、拉致の犠牲者は浮かばれる途はありません。

今ようやく朝鮮と日本の百年の近代の歴史が終幕を迎えようとしています。百年の不幸な歴史を閉じて、新しい時代の関係を築くために、政府も国民も百年の歴史に立脚して、議論することが大切です。

週末庭球部活動報告

池田 太郎

ブダペスト日本人テニス界には幾つかのグループがあり、各グループはそれぞれの特色を出してテニスを楽しんでいきます。私は、その中でも一番八チャメチャかつ本格的と思われる自称「週末庭球部」の部員として、楽しくテニスをしています。

我々週末庭球部は、部員と部活を土曜日と日曜日の二回に分けて、Szepevolgyi Teniszcentrum という室内コートで活動しています。部員は後述しますが、年齢層は二歳代から五歳代まで幅広く、会社・立場・年齢などの垣根を越え、テニスを肴に馬鹿騒ぎを性懲りもなく繰り返しています。その八チャメチャな活動内容の一端を、最近の部員送別行事を通じてご紹介します。

【土日対抗戦】

土曜日チームと日曜日チームに分けた団体戦。土曜日部活メンバーと日曜日部活メンバーのどちらが強いかという素朴な疑問から土日対抗戦が始まり、部員が帰任・転任する度に行われ、今までの戦績は土曜日チームの三戦全勝。今回は四回目で、総勢一四名・計一一試合による勝負。当然ながら、対抗戦後には反省会と称した家族参加の宴会がある。この宴会がまたクセモノで、乾杯の掛け声はいつからか「ういーっす」で統一され、歳を忘れた一気飲みでは撃沈者が続出する始末。オヤジ達の大声の馬鹿笑いが絶えないので、会場はお洒落なレストランより居酒屋やチャンコ茶屋が望ましい。

【部員・あだ名】

部員には昨年十一月のウィーン遠征バスツアー以降からあだ名があり、状況により変化する。後述するあだ名と本名の組合せをご想像頂きたい。

部員本名：石崎・池田・秦・石野・

土屋・盛田・茂木・深田・水田・吉田・池田夫人（敬称略・予想重量順？）

【チーム・あだ名】

土曜チーム：M田・親方・兄弟子・負神（まけがみ）様・悪童・女性特別ゲスト二名（水田夫人・堀部夫人）
日曜チーム：お奉行・ツッチー・モテッチー・馬鹿親一号（別名「負癖」・コーヘー・恵美ノ海・女性特別ゲスト一名（山下夫人）

【主な見どころ】

一．過去三戦全敗している日曜チームが、意地を見せられるか。前回「三度目の正直」ならず、「二度あることは三度ある」になった。

二．過去二戦は、送別会の主賓を擁した土曜チームが勝利しているが、日曜チームがそのジंकクスを守るか。（今回は馬鹿親一号が主賓）

三．日曜チームの三戦全敗は、負癖と負神様が同じ日曜チームにいた事が原因とされていたが、今回は二人のチームが分かれたので、どちら

の「負け」引力が強いのか。

【メール】

土日対抗戦前につきものなのが、チーム内外で飛び交うメール。対戦を組む前に、相手チームの出方を探ったり、自分が不得意な種目へ出場しないように探ったり、チーム内外で一部の部員が牽制し合う。「おいおい仕事しろよ、この人達…」という指摘もあるが、これが結構面白い。

【前夜祭】

前回同様にあったのが、この前夜祭。と言っても、今回は主賓の馬鹿親一号がどうしても勝ちたい為に、引越し中の自宅へ土曜チームの部員を招き、二日酔いにしてしまおうという策略。馬鹿親一号は酒が飲めず、土曜チームの部員は酒好きだけど夜更かしが苦手か、酒好きだけど撃沈するかのタイプのみ。果たして、馬鹿親一号の作戦は成功するか。

【勝敗】

試合は、心理戦（大先輩から若輩

への愛のムチ？）あり、カラ元気あり、熟成夫婦ミックスダブルスあり、団体戦らしく掛け声もうるさく、熱戦が繰り広げられた。今回の勝負は、なんと日曜チームが七勝五敗で土日対抗戦初勝利。

【主な勝敗分析】

一・対戦表。主賓の馬鹿親一号に最後は思いっきりプレーしてもらおうと、土曜チームは最後の一戦となる男子ダブルス 1 に重量ペアの親方・悪童組を予告先発したが、日曜チームはプライドより「勝利」を選び、実力 1 ペアである馬鹿親 1 号・ツッチー組を崩して対戦。これにより、土曜チームは対戦予想の前提条件を崩されてしまい、勝利の方程式が崩れた（と思う）。

二・お奉行公式戦初勝利。お奉行は土日対抗戦を含めた公式戦で全敗していたが、今回のミックスダブルスで念願の初勝利。対抗戦後も上機嫌のお奉行は、最年長（たぶん）に

も拘わらず足取り軽くビール注文を率先し、反省会（単なる宴会）では歌詞カードを持参し、なぜか「桃色吐息」をアカペラで披露。上品で清楚な奥様は苦笑しつつ呆れていた。と思う。次の目標は男子ダブルスでの勝利とのこと。（お奉行頑張れ！）

三、「負け」引力は負神様の勝ち。今回は、負神様と負癖がチームを分かれて対戦し、負神様加わった土曜チームが負け、「負け」引力は負神様に軍配が上がった。しかし今回の個人成績は、負神様〇勝三敗と負癖〇一勝二敗で、この二人はチームに拘わらず負けるらしい。

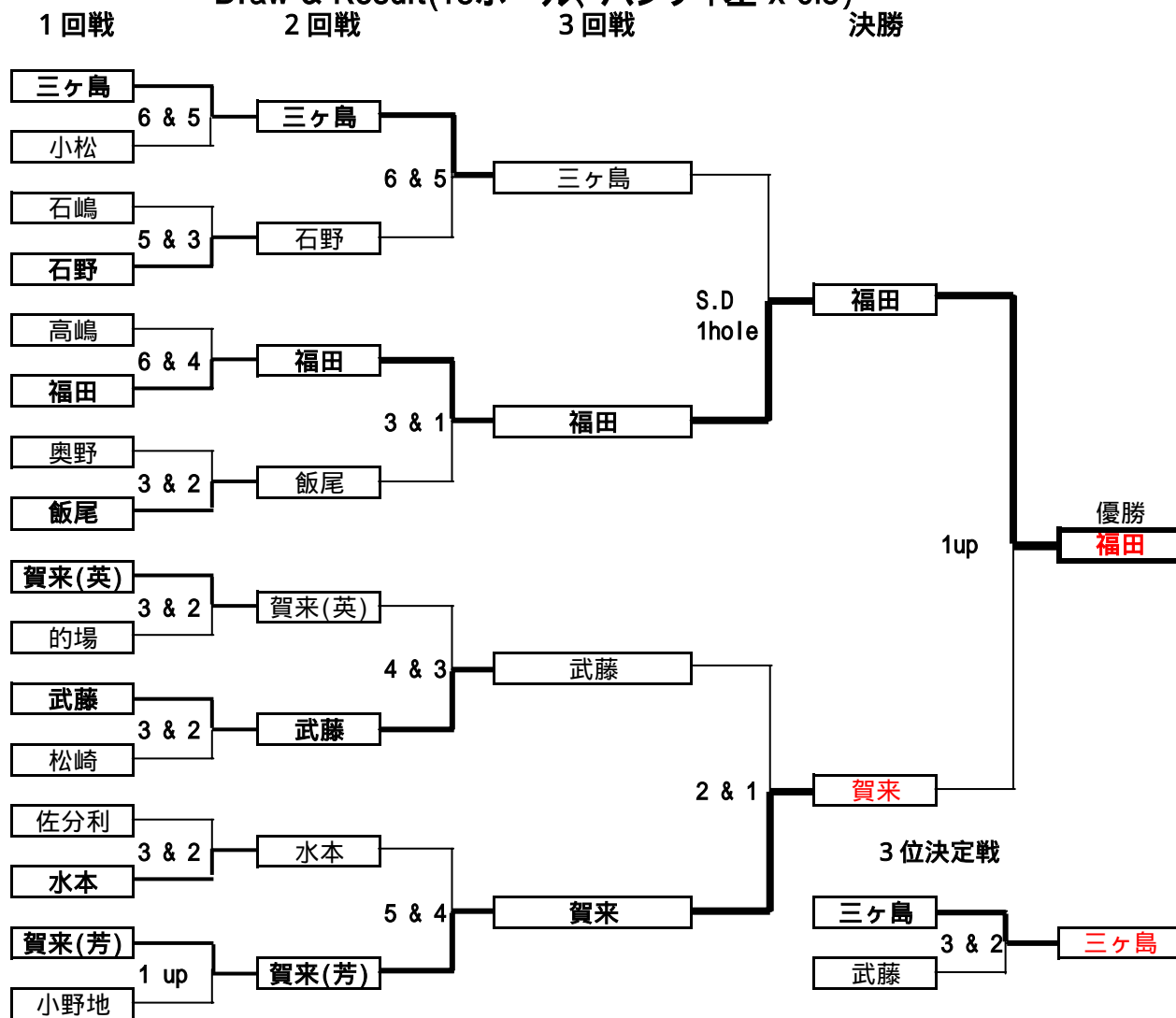
【百聞は一見に如かず】

我々の楽しい部活状況は皆様に伝わりましたでしょうか？会社・立場・年齢などを超越（無視？）したこんな週末庭球部ですが、入部希望者は日曜日午後二時に前述テニスコートに来て・見て・感じて下さい。追記：悪童はこの私です。

ゴルフ・マッチプレー大会結果

2002年9月28日開催

Draw & Result(18ホール、ハンディ差 x 0.8)



マッチプレー参加申込者

最新H/C

1	的場	ﾊﾞﾙﾊﾞｽ	25
2	福田	住商	12
3	飯尾	大吉	10
4	石野	住商	20
5	水本	ｸﾘｵﾝ	9
6	高嶋	JICA	16
7	小野地	ﾆｭｰｳｴｰﾌﾞ	20
8	松崎	ｸﾘｵﾝ	9
9	三ヶ島	ｸﾘｵﾝ	13
10	佐分利	日立ﾊｲﾃｸ	12
11	賀来(芳)	大豊	9
12	武藤	豊通	11
13	奥野	ｽﾐﾄﾗﾝｽ	20
14	石嶋	KPMG	4
15	小松	個人	9
16	賀来(英)	郵船	12